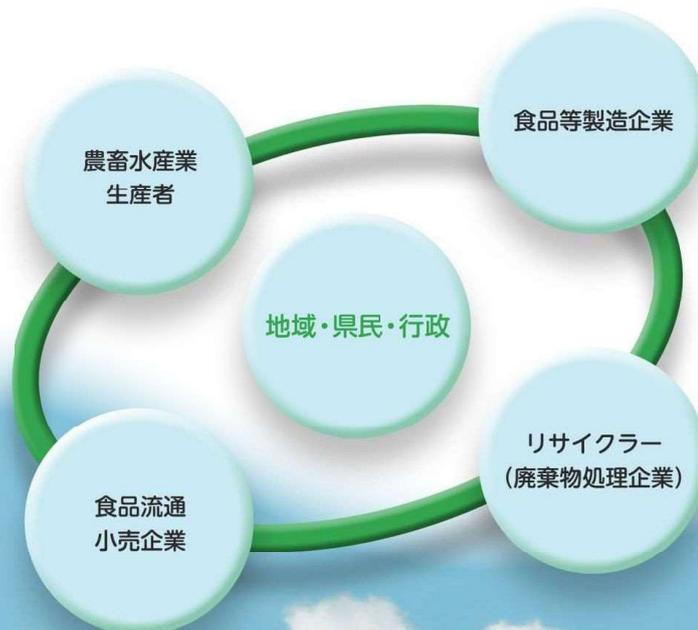


限りある私たちの地球環境と資源
未来に残せるように
もったいないの気持ちで
大切に使用させていただきます



21世紀、私たちのまわりは、地球温暖化による環境問題、エネルギー問題、食料問題など日本にとどまらず、世界的規模、地球的規模で、
待ったなしで解決しなければならない多くの問題を抱えています。
これらの問題解決には国際的、国家的協同の大きな取組みが必要ですが、
まさにSDGs「持続可能な開発目標」として世界の国々で取組みが進んでいます。
同時に「一人ひとりの身近な事から、地域からの協同の取組み」があっこそ解決する問題でもあります。
私たちは、市場原理や競争原理だけではなく、多くの人たちとネットワークをつくること、
協同し合うことによって、問題解決に向けた活動事業を行うことをめざし、
それにふさわしい仕組みとして、一般社団法人循環資源再生利用ネットワークをつくりました。
小さな単位（地域密着）でより多くの力を結集し、具体的成果を積み上げていく事を重視し、
まず有機性循環資源の再生利用を中心に取組みをスタートさせました。
そして今、「STOP THE 地球温暖化」をテーマに、有機性循環資源の再生利用の継続発展と、
「もったいない」の気持ちを大切に、事業の幅をひろげ、
地球温暖化対策・温室効果ガス排出削減や吸収の取組み、エネルギー問題にもチャレンジし、
未来の子どもたちに地球環境をバトンタッチしていきます。

しげんせいせいのネットがめざしたい



SDGs 持続可能な開発目標

50年後・100年後のこどもたちに！



2015年9月ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳に参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。

アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げました。この目標が、ミレニアム開発目標（MDGs）の後継であり、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。

私たちしげんさいせいネットにおいても会員の皆様と共にSDGs17目標の達成をめざしていきたいと考えます。とりわけ地球温暖化は地球規模で喫緊の課題となっています。私たちがこれまで進めてきた「有機性資源をしっかりと活用すること」は、まさに地球温暖化対策を具体化する取組みと言えます。

この有機性資源をリサイクルすること、畜産への飼料化・農業生産における肥料化堆肥化とその活用、再生可能エネルギー（バイオガス発電）への活用など、しげんさいせいネットが会員の皆様と作ってきた事業システムをさらに発展させていくことが、私たちしげんさいせいネットのSDGs目標達成のカギと言えます。

まずは、地球温暖化対策とつながる、目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、目標12「つくる責任 つかう責任」、目標13「気候変動に具体的な対策を」の具体化をご一緒に進めましょう。

しげんさいせいネットは 循環型・脱炭素型社会を目指した

2003年設立から2018年15周年まで

異業種による 会員ネットワーク 組織で資源循環の 事業システム

ネットワーク会員の共同事業で「エコフィード（飼料化）事業」などによる食品リサイクルが進みました



2019年

みんなで支えあうプラットフォーム づくりを始めました

しげんさいせいネット会員を中心に地域の企業が集う「場=プラットフォーム」をつくり、各社の経営課題と、持続可能な開発目標SDGs（循環型、脱炭素型社会形成）のマッチングを進めています



- ① セミナーを開催し持続可能な開発目標SDGsを知ることから始めました
- ② エコフィード事業からバイオガス発電や堆肥など資源の活用先をひろげるプラットフォーム化を進めました
- ③ エコフィード事業ではCSF（豚熱）発生対策の強化徹底を関係する全会員の共同作業として進めました

2020年～2022年

50年後・100年後の子どもたちに
地球をつなぐため
しげんさいせいネットの
プラットフォームづくりを充実させます！

しげんさいせいネット ステーション

エコフィード 行	→→→
バイオガス発電 行	→→→
堆肥化と農業活用 行	→→→
地球温暖化対策 (CO ₂) 行	→→→
プラスチック問題 行	→→→
食品ロス削減 行	→→→

- ① 食品ロス削減と食品リサイクル推進の社会システムづくりをめざします
- ② 食品リサイクルにおいてはエコフィード事業を中心に、バイオガス発電や堆肥化と農業活用など受け皿として活用方法の幅をひろげます
- ③ エコフィード事業は「安全な飼料」をすべての関係者の共通テーマとして事業の拡大をめざします
- ④ 温暖化対策はネットワーク会員の共同により調査活動やJ-クレジットなど制度活用を進めます
- ⑤ プラスチック問題は会員の「困った」を知ること・共有することから始めます

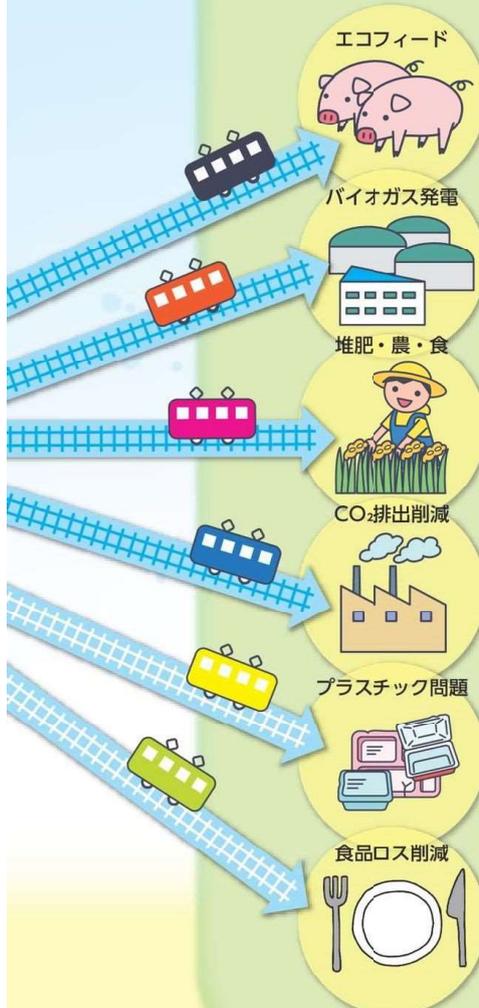
SDGsを推進し 事業システムを作ります！

2030年
SDGs 持続可能な
開発目標達成



2023年
しげんさいせいネット 20周年

食品ロス削減と食品リサイクル推進の 事業システムの確立 持続可能な企業へ発展



設立 20 周年の 2023 年を節目として、以下 7 項目を
テーマにした事業システム確立をめざします

- ① 3R (リデュース・リユース・リサイクル) による食品廃棄物の発生や排出削減、製造時に発生する副産物などの活用で食品の損失や食品廃棄物の削減を推進します
- ② 東海地域でのバイオガス発電施設へのアクセスを確保します
- ③ 気候変動に関する啓発学習活動を進めます
- ④ J-クレジットやカーボン・オフセット制度推進と CO₂ 排出量調査 (見える化) や削減を推進します
- ⑤ 再生可能エネルギーへの切り替え啓発活動を進めます
- ⑥ 会員ネットワーク組織ならではの地域連携による取り組みを進めます
- ⑦ プラスチック利用の抑制とリサイクルを推進します

持続可能な事業システムを構築することは、SDGs 目標の達成にもつながります。

しげんさいせいネットでは SDGs 目標 7・12・13・17 を中心に、1・2・4・9 の目標をもって 2030 年に向けた取り組みを進めます



しげんさいせい
ネットが
取組む SDGs

しげんさいせいネットの SDGs は 循環型社会・脱炭素型社会への取組み

しげんさいせいネットの SDGs は、目標 7・12・13 を中心に取組みを進めていますが、エコフィード事業や温暖化対策推進としてカーボン・オフセットにより、また、その他の目標に対しても取組みが始まっています。

「循環型社会」「脱炭素社会」への取組み 1

豚肉生産者「ロッセ農場」のエコフィード（飼料化）事業と SDGs

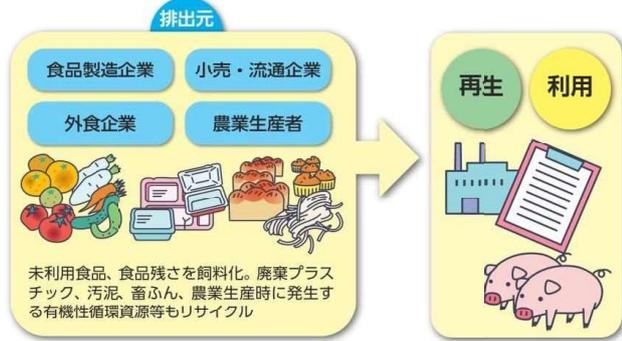


豚肉の生産に必要な飼料は主に輸入穀物が使用されます。その大半はアメリカなどからの輸入でまかなわれています。私たちのエコフィード飼料は国内で発生する食品製造の過程でできる副産物や余剰食品などを資源循環させて、国内飼料自給率の向上を目指しています。またできるだけ地域の中で循環を進めることから CO₂ など温室効果ガスの発生を抑制することができます。



●エコフィード（飼料化）事業のしくみ

エコフィードの原料は、食品の製造過程で発生する副産物や加工くず、食品として製造されたものの利用されなかった余剰食品などです。品質や安全性、肥育に必要な栄養、おいしく食べてもらえるような味にこだわり、地域の中で協働連携することを大切にしています。

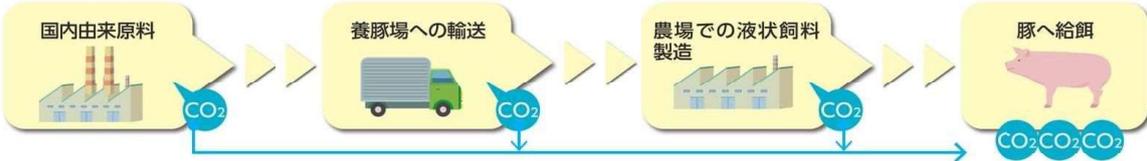


●飼料製造過程における CO₂ 排出量

海外由来原料配合飼料製造



国内由来原料液状飼料製造



コープの産直豚肉生産者「ロッセ農場」を対象にした豚 1 頭の肥育に係る CO₂ 排出量調査で次のことが分かりました。

- エコフィード + 配合飼料の液状飼料給餌の場合 … 448KgCO₂eq
- 配合飼料 100% 給餌とした場合 ……………… 585KgCO₂eq

豚 1 頭の肥育に係る CO₂ 排出量は、既存の配合飼料給餌に比べ、豚 1 頭の肥育あたり 137KgCO₂eq. 約 23% 程度の削減効果があります。

として始まっています！



「循環型社会」「脱炭素社会」への取り組み 2

産直生産者「もだに農園グループ」のりんごを使ったカーボン・オフセットの取り組み

カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動において避けることができないCO₂等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ削減努力を行い、それでも排出される温室効果ガスについて、削減努力をしている組織企業の活動を応援すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。岐阜県高山市にあるもだに農園グループでは、りんごを原料にした商品「やわらかドライりんご」の開発にあたって、このカーボン・オフセットを採用し、森林保全、地球環境保全に貢献しています。



パッケージ裏面でカーボン・オフセットの取り組みを説明しています

●環境に配慮した「やわらかドライりんご」のカーボン・オフセットのしくみ



商品ができるまでに地球温暖化の原因CO₂等が排出されます。

「やわらかドライりんご」1袋につき1円をCO₂を吸収する森林の管理、支援に役立てます。

管理がいき届いた森はCO₂をより吸収します。

●「やわらかドライりんご」における持続開発目標との多様な関係性

「もったいない」を解決

傷がつくなどして商品にならないりんごを使用

地域のつながり

岐阜県のみんごを、長野県で加工し、コープを中心に販売

安全・ヘルシー・おいしい

着色料を使わず安全、優しい甘さでヘルシー、低温製法で食感と旨みをぎゅぎゅっと閉じ込めました

資源を生かし、持続可能な社会へ 学び考える場を広げています

●もったいないからはじめよう！

「コロナ禍の中でのSDGsともったいないの社会をめざすセミナー」

2020年10月28日(水)・ウインクあいち(愛知県産業労働センター)

主催：生活協同組合コープあいち・循環資源再生利用ネットワーク

後援：消費者庁・愛知県・中日新聞社

コロナ禍の中ではありましたが、160名もの参加で開催することができました。農水畜産業の生産者、食品製造・加工業者、環境・リサイクル業、再生可能エネルギー、大学関係者と学生、医療関係者、行政、フードバンク、子ども食堂、給食センター、消費者など多彩な方に参加頂き、考え合いました。



◆基調講演・「食品ロス削減推進のキーワード」

消費者庁消費者教育推進課食品ロス削減推進室長 杉田敬一様

食品ロスの削減推進のキーワードとして強調したいことは、国民が食品ロスの問題を「他人事」ではなく「我が事」として捉えること。そしてその問題を頭で「理解」するだけでなく「行動」に移すことです。SDGsの実現と同じ様に、1人ひとりが我が事として考え行動していきましょう。



◆基調講演・「ポストコロナ社会の食品ロス対策」

プロジェクトリーダー・愛知工業大学教授 小林富雄様

食品ロスの問題は、従来の環境問題とは違い、旧来型の経済学では対応できません。食べられる量以上につくれば捨てられるという経済から脱却しないといけないのかと思います。環境経済社会の統合的な発展という方向性が重要で、SDGsの手法が使えます。社会と環境、経済(人とひととのつながり)をどうバランスよくやっていくのかがSDGsの本質だと理解しています。

何故捨てられるかという、安いと捨てられる。原価率の高いもの、おいしいものを流通させることを本当に考えないといけない、長期的に考えていかないといけないと思います。

ポストコロナの新しい食品流通は、質的な需給調整、チャンネルを変える、加工度、見せ方を変える、量より質へ、成熟した価値提供へと進むように思います。

◆パネルディスカッション・「食品ロスの削減をするためには何が必要なの？」

消費者にできること、事業者にできること、地域で取り組めることは？」

〈パネリスト〉

消費者組織……コープあいち専務理事 箕浦 明海 様

フードバンク…認定 NFO 法人セカンドハーベスト名古屋
理事長 山内 大輔 様

農業&農家レストラン…株式会社デイリーファーム
代表取締役社長 市田 眞澄 様

食品メーカー…イチビキ株式会社 代表取締役社長
中村光一郎 様

〈モデレーター〉

プロジェクト委員 中日新聞社 編集委員 飯尾 歩 様

愛知県環境局資源循環推進課 主任 深津 章文 様からは
家庭系食品ロス量調査について報告頂きました。



食品ロス削減推進を目指した取組み



● 「3R(Reuse,Reduce,Recycle)」 のもっと先へ “アップサイクル” “サーキュラーエコノミー” しげんさいせいネット夏季セミナー 2022 開催

2022年8月31日(水)・メルパルク名古屋

会場参加 46 名・オンライン参加 24 名の合計 70 名の幅広い皆さまに参加頂きました。

従来の 3R(Reuse,Reduce,Recycle) というあり方では、今日の危機的な状況は解決できない、製品設計の最初から、廃棄物を出さないあり方、廃棄物を素材として新たな価値あるものをつくることできるというお話でした。今回のセミナーによって、新しい循環型社会へ希望を持つことができました。



◆講演・「今後のバイオマス資源リサイクルについて」

株式会社小柵屋 専務取締役 鈴木邦彦 様

食品残さからつくる、バイオガス発電の効率を飛躍的に向上させる発酵助剤「ガスデッタ」(2020 愛知環境賞受賞) と、飲料メーカー等から大量に発生しているコーヒードロップを低コスト、低温で迅速に乾燥処理製品化することができる新技術(レドックスマスター)について解説。この新技術は牛の病気の予防、農業に於ける環境負荷を軽減する飼料や肥料として活用する事業につながります。これからのリサイクル産業は廃棄物を処理するのではなく新たな価値を創り出すアップサイクル、素材産業です。



◆講演・「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」について

愛知県環境局資源循環推進課循環グループ 課長補佐 岩崎 光成 様

サーキュラーエコノミー(循環経済)とは従来の 3R の取組みに加え、資源投入量・消費量を抑え、ストックを有効活用しながら付加価値を生み出す経済活動です。そして資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止等を目指すもの。その目的は、幸せな豊かな暮らしを求め、循環型社会を形成し脱炭素化を進め、さまざまな問題を克服することで、経済成長と環境経済社会が一体的に盛り上がっていくとことです。





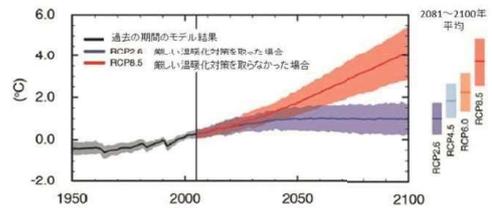
しげんさいせいネットの温室効果 地域循環型（地産地消）農業の取

地球温暖化は今

「地球温暖化で 2050 年 穀物価格 23% 増も IPCC 報告 水、食料不足を警告」 国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、干ばつ等の増加で 2050 年までに穀物価格が最大 23% 上がる恐れがあり、食料不足や飢餓のリスクが高まると警告した特別報告書を公表しています。報告書によると、陸地の平均気温は、陸と海を含む地球全体の 2 倍近いペースで上昇しています。

21 世紀末の地球は？

IPCC 第 5 次評価報告書では、20 世紀末頃（1986 年～2005 年）と比べて、有効な温暖化対策をとらなかった場合、21 世紀末（2081 年～2100 年）の世界の平均気温は、2.6～4.8℃上昇（赤色の帯）、厳しい温暖化対策をとった場合でも 0.3～1.7℃上昇（青色の帯）する可能性が高くなります。さらに、平均海面水位は、最大 82cm 上昇する可能性が高いと予測されています。



1986 年～2005 年を基準とした世界の年平均地上気温の変化（出典：第 5 次評価報告書より一部改変） 環境省 HP より

しげんさいせいネットの地域循環型・地産地消農産事業

しげんさいせいネット会員の連携という資産を活用し、生産から流通・販売消費まで地域の中の資源の循環の環を作る農産事業をめざしています。地域循環型・地産地消農産事業は SDGs 目標 12「つくる責任 つかう責任」、13「気候変動に具体的な対策を」、15「陸の豊かさを守ろう」の達成に向けた取り組みです。



しげんさいせいネットはリデザインプロジェクトに参加しています

リデザインプロジェクトは、愛知県及び近県地域において、地場産業の未利用繊維素材等を材料に、地域の学校で デザインを学ぶ学生が作成した作品をコンテストで選び、それを地域の障がい者が作業所で商品化し、地域の小売店舗で販売する、という地域の主体が繋がるパートナーシップ事業です。地域産業の資源循環×若者のセンス・アイデア×障がい者就労機会創出×消費者の共感というエシカル消費を具現化したプロジェクトです。

2022 年もコープあいちの 3 店舗で 5 日間リデザインプロジェクト商品を企画し、生協組合員に取組みを伝え、そして多くの商品をご利用頂きました。

☆リデザインプロジェクト実行委員会は「2023 愛知環境賞・中日新聞社賞」を受賞しました。



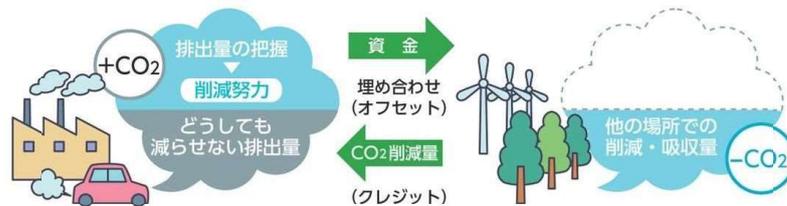
ガス削減吸収と 組み



まずは自らの CO₂ 排出量を知り、削減の努力をすることが大事！！

日常生活や経済活動で、どうしても出てしまうCO₂。まずはCO₂等温室効果ガスの排出の少ない生活や事業活動をめざすことが大切です。自社の排出量を把握することからスタートしましょう。できれば自社を取り巻く川上・川下の関係社とも協力し、もっとも排出量が多いカテゴリーについて、削減の対策を実行することが効果的となります。また、事業活動等で取組んだ省エネ設備の導入や再生エネルギー利用等は、国が認証するJ-クレジット制度の中でクレジット化して温暖化対策推進法の排出量調整・電気事業者の排出係数調整活用やカーボン・オフセット等資金循環することができます。排出量の調査把握から分析等お気軽にお問い合わせください。ご支援します。

その上でどうしても自らが減らせないCO₂ 排出分を、他の場所で削減したり、吸収したりする活動や企業を支援する、埋め合わせ（オフセット）することがカーボン・オフセットです。



しげんさいせいネットのカーボン・オフセットの取組み

消費者一人ひとりがだれでも気軽に、暮らしの中でできる取組みとして、主に東海3県で、市場出荷されない果物等を原料にしたドライフルーツと、EPAやDHAを豊富に含む愛知県産真いわしを原料にしたオイルサーディンを開発しました。製造や流通にかかるCO₂ 排出分を、中部地域で省エネ設備導入した企業のCO₂削減量や岐阜県の森林組合で登録されたCO₂吸収分のクレジットとカーボン・オフセットしています。

愛知県産真いわしを原料に活用した「オイルサーディン」は名古屋市の国際調理師専門学校とコラボ（産学連携）し、商品を活用したレシピ開発コンテストや、地球温暖化の勉強等を行い、カーボン・オフセットの啓発活動を行いました。

しげんさいせいネットの温室効果ガス削減吸収の取組みは、SDGs 目標 12「つくる責任 つかう責任」、13「気候変動に具体的な対策を」の達成に向けた取組みです。



しげんさいせいネットのあゆみ

- 2003 4月3日設立総会の開催。
- 2004 第1回通常総会。有機性循環資源の再生利用と養豚事業の飼料化としてパイプロ供給事業スタート。会員数35。
- 2007 愛知県循環型社会形成推進事業の補助金を受け「企業連携による食品循環資源廃プラ等をリサイクル、エネルギー化する資源循環事業化検討」を行なった。豊橋技術科学大学、(株)小枳屋と環境省研究補助金を受け、三年間の共同研究を始める。
- 2008 愛知環境賞「銀賞」受賞
食品の製造・運輸・販売・リサイクルに関わる、様々なネットワークを創造し、食品工場から発生する多様な未利用資源を、より高品質かつ高付加価値な製品として活用する、これまでにない仕組みを構築したことが評価され、(有)ロッセ農場との共同受賞となった。
- 2009 第6回通常総会において「しげんさいせいセンター」構想採択。中間法人法の廃止に伴い、一般社団法人へ移行することを承認。
- 2011 第8回通常総会において「しげんじゅんかん事業」構想採択。
- 2013 第10回通常総会第2部で「設立10周年記念つどい」を開催。会員数77。
- 2014 全国的に広がったPED(豚流行性下痢)への防疫活動対応にて、品質管理強化が進む。
- 2015 農水省エコフィード増産対策事業に参加し、過去最高の14,944tのエコフィード原料を供給。環境省平成27年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(環境貢献型商品開発)事業に参加し、ドライフルーツ等商品の販売促進でカーボン・オフセット制度の啓蒙活動を進めた。
- 2018 愛知県循環型社会形成推進事業費補助事業に「輸入原料由来乾燥飼料から国内原料由来液状飼料へ転換することでのCO₂削減効果調査」テーマで参加。(有)ロッセ農場のリキッドフィードおよびエコフィードのシステムと、アメリカからの穀物輸入、配合飼料給餌におけるCO₂排出量を調査比較し、その優位性と排出量削減を明らかにすることができた。
- 2019 愛知県循環型社会形成推進事業の補助金を受け「地域ネットワーク組織による有機性資源活用 バイオガス発電システムの事業性調査」を行った。愛知県内での事業性が認められ、消化液の液肥活用や省エネ活用等を継続調査する。
エコフィード(飼料化)事業で、CSF(豚熱)等の発生に対する対策研究を進めた。
- 2020 食品ロス削減をめざし「もったいないプロジェクト」を立ち上げ、「コロナ禍の中でのSDGsともったいないの社会をめざすセミナー」160名が参加してウインクあいち(愛知県産業労働センター)で開催。連続して「もったいない懇談会」も開催した。
- 2021 しげんさいせいネットオンラインセミナー2021テーマ「脱炭素経営とJ-クレジット」講師株式会社ウエイストボックス様
- 2022 20周年記念アンケートの実施。3Rのもと先へ“アップサイクル”“サーキュラーエコノミー”をテーマにした夏季セミナー2022をメルパルク名古屋でオンライン併用で開催70名の参加。



しげんさいせいネットの概況と組織

名称	一般社団法人 循環資源再生利用ネットワーク (略称:しげんさいせいネット)
所在地	愛知県名古屋市中東区猪高町上社字井堀 25-1
設立	2003年4月3日
会員	69会員 2023年2月3日(第20回定時社員総会)現在
役員	理事長 吉永 満穂 副理事長 渡邊 修 専務理事 山本 久(常勤)

お問い合わせは

しげんさいせいネット事務局 TEL 052-703-2108 FAX 052-703-2119
メールアドレス shigensaiseinet@tcoop.or.jp
shigensaisei.net2003@gmail.com
しげんさいせいネット WEB URL <http://shigen-saisei.net/>